

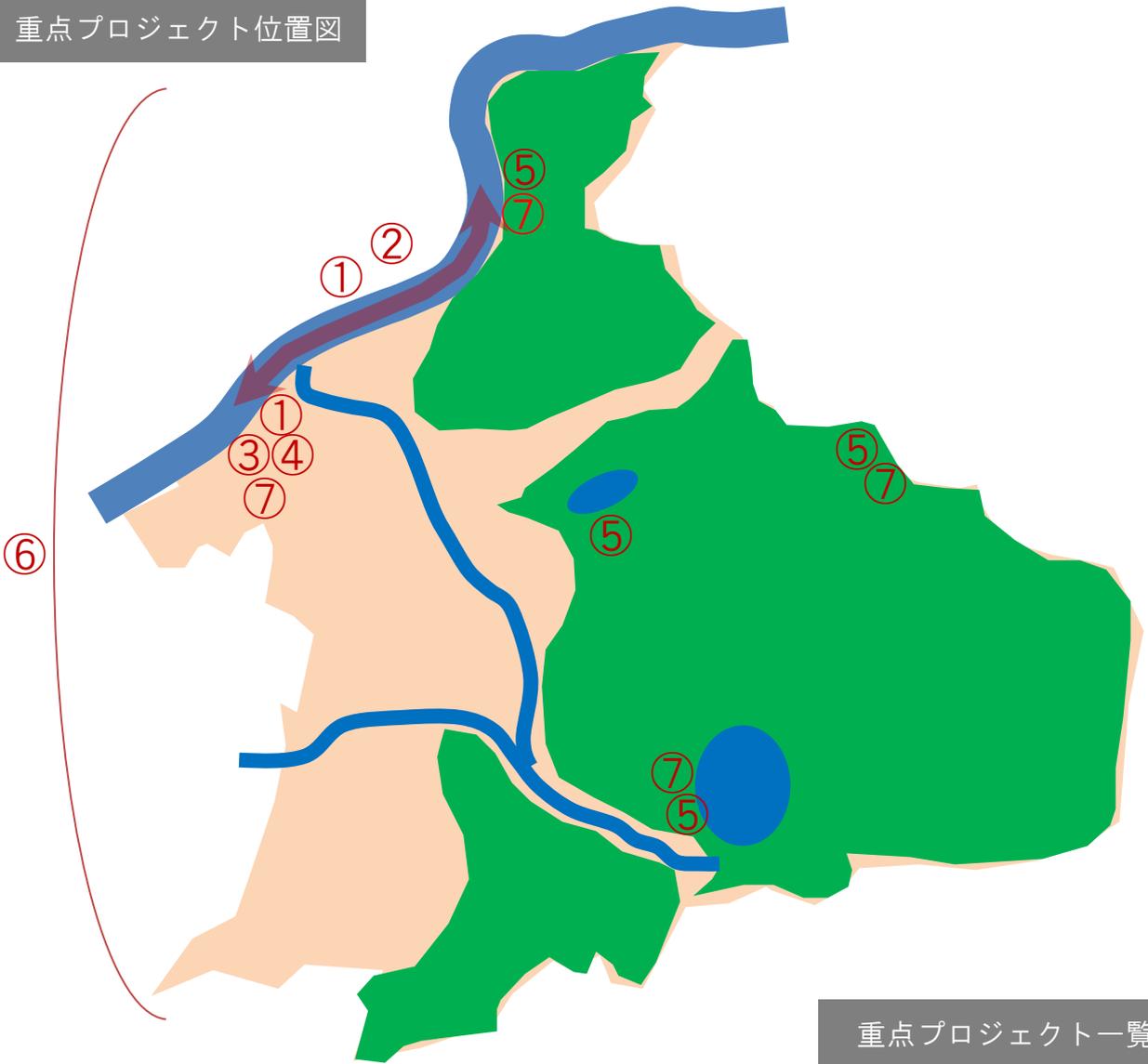
重点プロジェクトについて

7. 重点プロジェクト

(1) 重点プロジェクトとは？

観光戦略において目指す姿を実現するために行う施策のうち、特に重点的に実施する必要がある取り組みである。また、観光分野における犬山らしさの基本コンセプト「犬山三景 水景・城景・緑景」と連動し、推進するものである。

重点プロジェクト位置図



重点プロジェクト一覧

【水景】 ①遊園ルネサンス ②日本ライン再発見ルート	【水景・緑景】 ⑤SDGs 体験・学習サイト
【城景】 ③城下町景観・環境レベルアップ ④城下町クリエイティブ層の移住マッチング	【三景】 ⑥クロスオーバー資源開発 ⑦ユニーク MICE

(2) 重点プロジェクト

7-1 遊園ルネサンス

現状と課題

木曾川河畔内田地区は、かつて旅館街として宿泊客を受入れ、賑わいをみせていました。日本八景にも選出されるなど、風光明媚な水景は多くの観光客を呼び込み、市民にとっても憩いの空間となっていました。

その後、長い年月を経て、モータリゼーションの発達や道路・交通網の整備により、人々の観光動向も変化。犬山観光が日帰り客中心の観光地となるに従い、内田地区は旅館数の減少や住宅が建設されるなど、かつての状況から変化しつつあります。

川沿いの遊歩道についても、整備から長い年月が経過し、舗装の劣化も見られるようになっていきます。歩道内の桜の木も経年により老朽化が進んでいます。

施策の展開方針

令和3年度に名鉄犬山ホテル跡地に新たなホテル（ホテルインディゴ犬山有楽苑）が開業したことを契機として、内田地区の河畔整備を実施し、古くて新しい観光スポットとして、そして市民の皆さんにとっても憩いの場となることを目指し、遊歩道の整備を図ります。

ハード整備だけでなく、ソフト事業も事業促進します。具体的には20年以上の歴史がある犬山朝市の充実、宵のいぬやマルシェの本格実施のほか、飲食や物販事業者の誘致など新たな賑わいと憩いの場所づくりを進めます。

チャレンジする重点施策（案）

- 内田地区木曾川河畔整備（社会実験から実装へ）
- 用途規制、景観規制などの検討
- 宿泊・飲食・物販の誘致（マッチング）
- 文化的景観の研究・調査
- 鵜飼ガイダンス施設の整備検討

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	%	x (2022年度)	
	店	x (2022年度)	

7-2 日本ライン再発見ルート

現状と課題

犬山市北部を流れる名勝木曽川は、四季折々の景色を楽しむことができ、市民及び観光客に親しまれています。古くから水運・舟運により犬山市の経済の発展に寄与した極めて重要な河川と言えます。また、地理学者志賀重昂が1913年（大正2年）犬山市付近の木曽川の流れを称して「日本ライン」と命名。観光地としても価値づけと賑わいをもたらしました。

加えて、岐阜県美濃加茂市から犬山市にかけて約13kmを遊覧し、木曽川の急流と奇岩群の眺めを楽しむことができる「日本ライン下り」が人気を得て、最盛期の1970年代には年間40万人を超える利用客が訪れましたが、事業収益の悪化などにより平成25年度以降運休されるなど、かつての活況は失われています。

現在は、木曽川ラフティングが運営されたり、遊覧船が就航したり、新たな魅力づくりが進んでいますが、さらに木曽川を一体的に楽しむことができる資源としての磨き上げが必要です。

施策の展開方針

かつて日本ラインと呼ばれた美しい景観を保全するとともに、木曽川河川空間という価値を再定義します。その上で、木曽川河畔の豊富な資源を活かし、何度も訪れたいくなる、楽しい空間づくりを進めます。

城下町至近から発着する遊覧船を、年間通じて楽しむことができるよう、定期便の安定的な就航に加えて、魅力的な企画船メニューを拡充していきます。

多様な実施主体者と連携し、栗栖園地の整備をはじめ、栗栖地区のアウトドアアクティビティを充実させます。

長期的な目標として栗栖地区から内田地区、そして木津地区に至るまでの遊歩道整備を目指します。

チャレンジする重点施策（案）

- 栗栖から木曽川犬山緑地までの遊歩道整備と交通規制の研究・検討
- 遊覧船メニューの拡充
- 文化的景観の研究・調査
- 栗栖アクティビティサイトの整備

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	m	0 (2022年度)	x
	人	x (2022年度)	x × 120%

7-3 城下町景観・環境レベルアップ

現状と課題

犬山城及び城下町に観光客が集中することにより、ゴミのポイ捨て、道路混雑、私有地への立入など、地域住民の生活に影響を及ぼしています。また、本町通りなど沿道店舗が掲出する屋外広告物のルールが十分に守られていないことから、城下町としてのまちなみ景観の統一感が失われつつあります。まちなみの景観保全に向けたルールを共有する必要があります。

施策の展開方針

城下町地区の美しい景観が損なわれることのないよう、事業者、地域住民など関係者が「まちなみの在り方」や「住民と観光客との調和・共存」について考える機会を設け、景観や良好な生活環境の保全に必要なルール等を整えます。その上で、屋外広告物のルールについても共有し、美しい城下町の景観づくりを進めます。

城下町地区において、武家町、町人地など、町内ごとの歴史的な経緯も踏まえた賑わいの場所づくり・名所づくりを進めます。

観光客が集中する時期、時間、曜日などを分散化・平準化する取り組みを進めます。

チャレンジする重点施策（案）

- 本町通りの屋外広告物・環境（ゴミ・音・匂い）等のルール構築と共有
- 武家町、町人地、町内ごとの景観づくり（歴史を踏まえた名所・賑わいの場形成）

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032年度
	回	0 (2022年度)	
	拠点	0 (2022年度)	

7-4 城下町クリエイティブ層の移住マッチング

現状と課題

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大して以降、ビジネスの形としてテレワークやワーケーションなども見られるようになるなど、働き方が多様化しています。

一方、城下町には歴史的建造物が点在しており、誘客だけでなく貴重なまちの資源として保存していくことが望まれますが、毎年、老朽化等の事由により除却される事例も見られます。

今後、これら城下町の貴重な資源を守るため、建造物の調査・保存のスキームを確立するとともに、「活きた資源」としての活用も求められます。

このため、城下町の空き家等をワーケーションや地域の交流拠点など様々な活用方法により、資源を保存・継承していくことが重要です。また、城下町の人口は減少しており、空き店舗としての利用だけでなく、移住・定住につながる取組みが必要です。

施策の展開方針

歴史的建造物の保存活用に向けた検討・支援を行うとともに、活用可能な建造物については、クリエイティブ層を中心に移住を見据えた建物の利活用が図られるよう、町内会、所有者、事業者、まちづくり団体など様々な関係者との調整を経てマッチングできるような仕組みを構築、運用を図ります。

チャレンジする重点施策（案）

- 歴史的建造物の保存活用に向けた検討・支援
- ワーケーションとしての活用検討・実施
- クリエイティブ層をはじめとした移住のためのマッチングの取組み

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	件	x (2022 年度)	
	件	0 (2022 年度)	

7-5 SDGs 体験・学習サイト

現状と課題

持続可能な社会構築のため、世界的に SDGs の取り組みに関する重要性が高まる中、本市においても様々な施策の推進により、SDGs を意識した活動の拡がりが求められています。

取り組みの一環として、犬山市では栗栖・今井・八曾のような豊富な自然環境に恵まれた地区があり、SDGs の理念を踏まえたコンテンツづくりが必要です。また、本市は木曾川、入鹿池のような水資源に恵まれた土地であり、今後は犬山市の治水・利水の歴史が観光客及び市民に広く認知されるような、観光面においても環境を意識した周知・啓発の取り組みが必要です。

施策の展開方針

本市の恵まれた自然環境などを、SDGs の学習の場とすることで、観光分野での利活用を図ります。市民及び観光客が SDGs の理念を楽しみながら学び、理解が深まるような取り組みを進めます。

具体的には、栗栖・八曾・今井など、キャンプができる場所で環境に関する学習会を開催したり、犬山頭首工や入鹿池などでは、周辺地域にも繋がる治水・利水機能など、その歴史も含めて学ぶ機会を設けたりして、これまで本市が観光分野では十分活かすことができていなかった地域資源に注目し、活用します。

新池・中島池では既にビオトープ事業が進められていますが、周辺の民間所有地も含め、市民、観光客ともに憩いの場となるよう、一体的な整備を目指します。

チャレンジする重点施策（案）

- 栗栖、今井、八曾のキャンプサイト活用
- 新池、中島池の環境学習サイトの整備
- 学びのツーリズム（犬山頭首工、入鹿池を活用）

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	箇所	x (2022 年度)	x + 2
	箇所	0 (2022 年度)	1

7-6 クロスオーバー資源開発

現状と課題

犬山市には自然、歴史、文化などの観光資源が点在していますが、人流データなどによると観光客は一箇所訪問が多く、市域全体を回遊していない状況です。豊富な観光資源を活かし、異なる分野でも観光資源をつなぐことや、体験型などの観光コンテンツを多数造成することで、犬山市での滞在時間を増やす取組みが必要です。

また令和元年のアンケートでは本市特産品について「思い浮かばない」が半数以上を占めるなど、魅力的な商品開発や既存物産の磨き上げが必要です。

施策の展開の方針

犬山市の自然、歴史、文化などの豊富な観光資源を活かし、様々な分野との連携により、犬山ならではの観光が味わえるコンテンツ造成、体験メニューの開発を推進していきます。加えて、高単価、高付加価値の商品造成の取組みを進めます。

それら商品開発と異分野との連携を推進する組織体制を整え、着実に事業が推進される仕組みづくりを行っていきます。

チャレンジする重点施策（案）

- DMO 機能の導入を検討
- 異分野連携、多様な主体の参加による観光コンテンツ・体験メニュー開発と磨き上げ

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	件	x (2022 年度)	
	—	(2022 年度)	

7-7 ユニーク MICE

現状と課題

犬山市は歴史的建造物や豊かな自然など、多様な観光資源を有しています。犬山市への誘客と滞在時間の延長、そして消費を増やすには、観光客だけでなく、法人や教育機関など団体客による行事の場として犬山市が選択される必要がありますが、現状の取組みは十分ではありません。

このため、全国で取り生まれ、整備が進む MICE 機能を本市においても充実させる必要があります。取り分け、名古屋大都市圏という好立地を活かして、犬山市の豊富な自然環境や明治村、リトルワールドなどの文化資源、城下町などの歴史資源を活用し企業等の会議や報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）、修学旅行などの教育旅行の場として活用されるよう、環境を整える必要があります。

施策の方針

犬山市への来訪者数の増加、及び長期滞在を目指し、法人や学校等が行事の際に犬山市をフィールドワークの場として活用されるよう、各観光施設と連携して利用の促進を図っていきます。

チャレンジする重点施策（案）

- 城下町、明治村、リトルワールド、キャンプサイトの活用
- MI（ミーティング、インセンティブ）を中心とした MICE 誘致の推進

目標指標

目標指標	単位	基準値	目標値
		(基準年度)	2032 年度
	件	x (2022 年度)	
	件	0 (2022 年度)	

(3) 施策の総括表

高めるもの・方向性	チャレンジする重点施策(案) (赤字:重点事業)	重点プロジェクト(案)							
		7-1 遊園ルネサンス	7-2 日本ライン再発見 ルート	7-3 城下町景観・環境 レベルアップ	7-4 城下町クリエイ ティブ移住	7-5 SDGs体験・学習 サイト	7-6 クロスオーバー資 源開発	7-7 ユニークMICE	
		水景	水景	城景	城景	水景・緑景	水景・城景・緑景	水景・城景・緑景	
滞在・体験型観光 (宿泊施設の充実 &体験メニュー開発)	遊覧船メニューの拡充(企画船、定期船等)	●	●				●	●	
	木曽川(栗栖～内田地区)文化的景観の検討と調査	●	●			●			
	木曽川河畔地区の用途・景観規制の研究検討、宿泊・飲食・物販の誘致	●					●	●	
	木曽川河畔の賑わいづくり(マルシェの通年実施他)、エリアマネジメント	●					●	●	
	栗栖、今井、八曾のキャンプサイトを自然体験・環境学習の場に		●			●	●	●	
	ナイトタイムエコノミーの充実(イベント、飲食店、イルミネーション、ライトアップなど)	●					●	●	
	体験型観光メニューの開発(シェアエコ活用等)	●	●				●	●	
	多様な宿泊形態の実現(イベント民泊+民泊施設、簡易宿所増、一棟貸切り型宿泊施設)	●	●		●			●	
	駅西ホテル・インディゴとの連携・体験コンテンツのガイダンス機能	●					●		
	既存宿泊施設の充実	●						●	
	広域観光・周遊ルートの造成(犬山を(宿泊)拠点とした広域周遊)	●					●		
	テーマパーク名鉄3園の魅力発信と一泊したくなる仕掛けづくり						●		
	観光客の分散化・平準化の取り組み推進	●	●	●	●	●	●		
	MICE:城下町、明治村、リトルワールド、キャンプサイトの活用		●					●	
MIを中心にしたMICE誘致の推進	●	●					●		
資源発掘・創造 ブランド形成 (ソフト施策)	犬山頭首工、入鹿池が舞台の環境学習	●				●	●	●	
	犬山温泉の再興(インディゴ犬山有楽苑とともに)	●					●	●	
	里山を活かしたアウトドア・スポーツ観光(トレイルランニングレース開催等)		●			●	●		
	入鹿池(世界かんがい施設遺産)の資源磨き上げ(釣一リズム、視点場)					●	●	●	
	(大本町/下本町/魚新通等)城下町ストリートの特徴を出す(にじみだし)			●	●		●	●	
	城下町の中心地・本町通り「かわいいと文化(財)融合」のまち+視点場づくり			●			●		
	尾張の奥座敷としてのブランドイメージ向上に向けた取り組み	●		●			●		
	街道を歩く観光商品の造成(インバウンド、アクティヴシニア)						●		
	異分野連携、多様な主体の参加による観光コンテンツ・体験メニュー開発	●	●				●		
	高単価、高付加価値商品造成の取り組み推進	●	●	●	●	●	●		
	世界でも稀有な施設「日本モンキーセンター」「明治村」のブランド力向上						●		
	犬山焼の新たな価値づくり(ブランディング)						●		
	文化財・芸術・スポーツ分野の連携と活用(スポーツコミッション等との連携等)	●	●	●			●		
	名古屋市との連携による犬山のブランディング	●	●	●			●		
デジタルコンテンツづくりと充実						●			
景観・空間の整備 (ハード施策)	関東、関西、名古屋圏でのアンテナショップ等の展開						●		
	鶴飼ガイダンス施設等の整備(鶴飼の充実と拠点の整備検討)	●							
	栗栖アクティビティサイト整備(園地・登山道・河川空間、農園、桃太郎神社等)		●			●			
	栗栖から緑地までの遊歩道整備と交通規制検討		●			●			
	内田木曽川河畔整備(社会実験から実装へ)	●							
	視点場、案内板、ベンチ等の整備	●	●	●		●	●		
	歴史的建造物の保存活用(調査→支援)			●	●				
	空き家の活用(ワーケーション、クリエイティブ層の移住のためのマッチング等)				●			●	
	城下町「美しいまち」を意識した施設整備(看板、道路、街路樹など)			●					
	国道41号沿道「道の駅」整備(市中心部に観光案内機能を備えた施設整備)								
域内循環型の 観光経済確立 (地産地消)	新池、中島池の環境学習サイト整備					●			
	二次交通の課題改善と充実(観光ガイドタクシー、ホテルからのシャトルバス運行、MaaS)								
	犬山の「水」にまつわる商品の開発・充実	●					●		
	城下町とその他の地域を結びつける取組み(出張朝市、案内所から情報発信強化)		●				●		
	ECサイトでの販売体制確立及び拡大						●		
	特産品開発(地域資源活かして東京で売れる特産品を)						●		
みんなでつくる観光施策 (市民参画・交流 ・関係人口増・多様な参画)	地元にも愛される名物・普段使いの特産品(既存の価値ある資源磨き上げ)						●		
	地元で調達、地元で消費の仕組みづくり	●	●				●		
	老舗になり得る店舗支援・誘致						●		
	新たな財源獲得検討(税、利用料など)	●	●				●		
	本町通の屋外広告物・環境(ゴミ・音・匂い)等のルールづくりと共有			●					
データの収集・活用 (プロモーションの充実)	武家町、町人地、町内ごとの景観づくり(歴史を踏まえた名所・賑わい形成)	●		●	●				
	市民が参画する観光まちづくり(対話の場、参画の仕組みづくり、観光人材育成 等)	●	●			●	●		
	ワーケーション・フリージャーの仕組みづくりと誘致	●	●				●	●	
	DMO機能の導入						●		
災害・衛生 マネジメント	インナーブランディング(犬山愛の醸成)	●	●			●	●		
	目標とする数値(KPI)の設定	●	●			●	●		
	経験の蓄積とデータを踏まえたプロモーション(KPIの活用、定点観測、アンケート等)	●	●			●	●		
データを用いた事業者間連携	定点観測による施策事業の進捗確認と精査	●	●			●	●		
	犬山キャンペーンの更なる深化	●	●				●		
	データを聞いた事業者間連携	●	●			●	●		
事業者間連携によるリスクマネジメント、ルールづくり	安心・安全の観光地を具現化する取組み(認証制度など)	●	●			●	●		
	BCP・DCM(※Destination Community Management)の体制づくり	●	●			●	●		